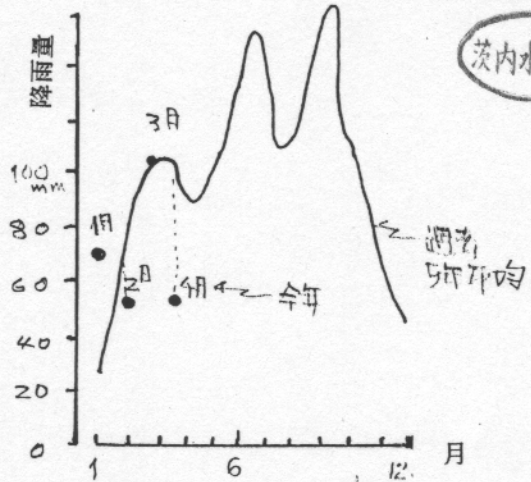


現在の水質

日増しに、水温も上がりいよいよ漁業も本番を迎えます。4月ごろから新聞やテレビで各地の水不足が報道され本県でも那珂川の赤潮の様子が報じられました。こうしたこともあって、これからの霞ヶ浦の水質や漁業のことが気になります。そこで、今回は、水質の現状を述べてみます。今年の降雨は過去5年に比較すると図1からあきらかなように4月にすくなく例年の半分ですが他の月はまあまあといったところでは、こうしたことを反映して一時85センチまで低下した水位も、その後の降雨によって回復し、現在は95を保っています。水質は現在のところ特に目だつた現象はみられません。水中の有機物の量の指標であるCODをみると今年の5月は7.2

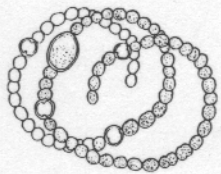
茨城内水試図



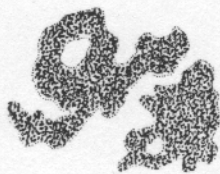
P.P.M.で、過去5年のうちでは最大の53年の10.7と最低の60年の5.5の中間の値をとっています。CODは、5110月は、植物プランクトンの量を代表しているものと考えられます。したがって、魚、エビ、あるいはイサザ等水産動物が生きていくためにひつような酸素の供給も、えさとなる動物プランクトンやアカムシ等ももとはといえば、皆、この植物プランクトンなのです。しかし、CODがたかければたかいかい程、また、植物プランクトンが多ければ多い程、良いかという、けっしてそうでなく、その中身が、より重要

5月の水質

項目	年	58	59	60	61	62
水温		19.9	14.7	18.8	18.8	18.6
COD		10.7	5.6	5.5	6.9	7.2

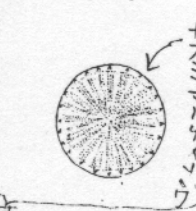
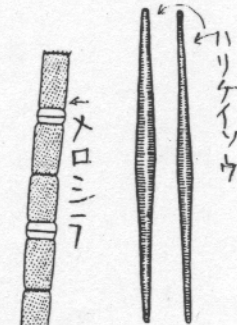


アサベナ

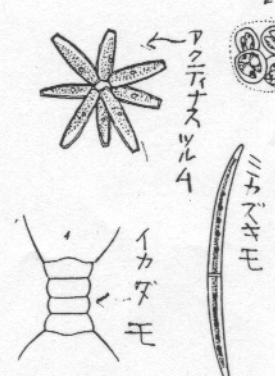


アオコ

これから出てくる
らん藻類



カスミマルケイソウ



藻類

オオシズメ

です。CODがたかすぎるとは魚貝類が利用できないばかりか、48年のように湖全体の酸素欠乏や生産に不利益をもたらします。そのような状況下では、ミカズキモやムレミカズキモ等(図参照)が優占する傾向があります。現在のところ、そのような種は少なく、良質のプランクトンのハリケイソウやカスミマルケイソウ、メロケイソウなどの珪藻が中心となっています。以上のように、現在の水質はまずまずといえましょう。

月日	水温	酸素
6.3	22.0	7.4
4	22.0	7.4
6	24.2	8.1
8	25.2	6.6

6月6、7日の猛暑
6月6、7日は、30度をこえる暑さで水温はいつきに25度以下に達しました。湖心では、透明度が1.7Mに上昇、水変りりの状態にあるますが、酸素は、6.6から8.1 PPMと平常値を保っています。